

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第92号

[2017年2月号]

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第92号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ/ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

<目次> [ページ]

メソトマンスリー

国内から

国際保健医療協力のなかで (36)

編集後記

次号の予定



メソトマンスリー

【メソト＝神谷 友子】



最近のメソット

しばらく日本に滞在していましたが、1月30日よりメソトに戻り、現地での活動を再開しました。渡航直前の1月28日(土)には、私の地元である埼玉県越谷市で開催された「協働フェスタ」というイベントに参加させて頂き、メータオ・クリニック支援の会のポスター掲示を行いました。越谷市の市民活動団体・行政・企業が一堂に集まり、展示や体験コーナーもあり約4,000名の来場者がありました。

<https://koshigaya-shiminkatadorengokai.jimdo.com/%E5%8D%94%E5%83%8D%E3%83%95%E3%82%A7%E3%82%B9%E3%82%BF/%E7%AC%AC9%E5%9B%9E%E5%8D%94%E5%83%8D%E3%83%95%E3%82%A7%E3%82%B9%E3%82%BF/>

ネパールの学校を支援している団体の写真展の場所に、友好団体として当会のポスターと写真を掲示していただきました。日本への移民の支援をしている行政書士さんも参加されていて、新しい出会いがありました。いろいろな分野の団体に参加していたので、普段接することのない方にもミャンマー移民・難民のことを知って頂けるいい機会になったと思います。

メータオ・クリニックでは、久しぶりに会う多くのスタッフに歓迎されて、改めて現地での活動を頑張ろうと気持ちが引き締まるとともに、たくさんの仲間とまた一緒に働くことができる喜びを実感しました。現地駐在が私一人という環境の中で、「おはよ」と片言の日本語であいさつをしてくれる現地スタッフの存在はとてうれしく、また心強く思います。

昨年の看護研修に参加していた産科病棟のスタッフに、研修の後はどう？と病棟での最近の様子を聞いてみました。以前はカルテを患者さんのベッドに置いていたのを、カルテワゴンに収納するようになったそうです。ベッドの上は一見きれいに見えてもけっこう汚れているもので、ベッドに直置きしたカルテをたくさんのスタッフが手にして、その手を洗わずに他の患者さんに触れると院内感染のリスクが高まります。その点で、カルテをベッドに置かずにワゴンに保管しておくことはとても意味のある事です。

今カナダからの看護師ボランティアが内科病棟にいるため、私は外科病棟の看護スタッフのフォローをすることになりました。昨年私も関わっていた看護研修に参加した4つの病棟から合計25名のスタッフは今各病棟で「Nurse」として働いています。外科病棟に長く勤める年配のスタッフは、「今まで問題なくうまくやっているのだから、変える必要はない」と、自分たちのやり方をなかなか変えようとしなないため、若いスタッフが従わざるをえないという状況です。海外ボランティアの医師の話にも耳を傾けようとしなないため、今まで何人ものボランティアが挫折しています。2015年の赴任直後に外科病棟の患者さんの看護ケアの支援をしていたので、この病棟での活動の困難さは実感しています。せっかく研修で学んだことを病棟での患者さんの看護ケアに生かしてもらえるように、一緒に働きながらフォローしていきたいと思います。

2月14日、クリニックの広場では、疾病予防健康促進部門のスタッフがチョコレートを配っていました。かわいく風船で飾り付けが施されて目を引きます。私もチョコを頂いたのですが、一緒に Condom と性病に関するパンフレット(ミャンマー語で書かれたもの)も渡



されました。バレンタインにちなんでの活動、とてもいいなと思いました。



協働フェスタ展示ブースの様子。(協働フェスタHPより)



クリニック前の道路。
左奥にクリニックの建物が見えます。
畑に囲まれています。



クリニックの近くにも家が作られてきています。



シンシア院長も交えての会議にて。
日本からクラウドファンディングでの支援が決まり、とても嬉しそうにされていました。





クリニックを訪れる人に、バレンタインデーにチョコを配りながら性に関する啓もう活動をしていました。昨年からタイ人の外部スタッフが公衆衛生の活動を一緒にしています。



いただいたパンフレット、チョコレート、コンドーム。



ポスターも掲示していました。



内科病棟の看護スタッフと。また一緒に働けるのが楽しみです。



国内から

【沖縄＝前川】

みなさま、こんにちは。事務局の前川と申します。全国的に寒い日が続いていますが、みなさま、お元気でいらっしゃいますか。私が暮らす沖縄も、ここ数日は島国特有の強い風に冷たい空気が加わり、沖縄とは思えない寒さが続いています。今年の今頃、私はメソトに滞在し、研究の調査を行っていました。今日はその時のお話をしたいと思います。

私の研究は、メソトに暮らすミャンマー人移民は具合が悪くなった時にどのような行動を取るのだろう、というものです。2年間 JAM の現地派遣員としてメータオで働いていた頃は、メータオに来る方々の声だけを聞いていました。一方で、メータオに来ない移民の人たちはどのような暮らしをしていて、病気になった時にどうしているのだろうという疑問がありました。

タイは日本と同様、国民皆保険があり、タイ国民の加入率はほぼ 100%です。移民が加入できる健康保険もあります。年間 6,000 円ほどの加入料を支払えば、都度の受診では 30 バーツ (100 円程) の支払いだけでタイの医療サービスが受けられます。受診先の病院で治療が困難な場合には、高度な病院へ転送し治療もしてくれるのです。

しかし、身近で活用されている様子を見たことはなく、健康保険の存在自体を知らない、1 か月分の所得に相当する加入料を払いきれないなどの声を聞くことがしばしばありました。そこで、メソトにある 300 以上の工場の内、数か所を訪問しインタビュー調査を行いました。工場労働者の大半は、10 代後半から 20 代の若者です。村に仕事がないため、家族や友人を頼って今の工場に働きに来たそうです。高い壁に囲まれた工場内はどこも薄暗く、蛍光灯のわずかな明かりの下、黙々と作業にあたる様子は決していいとは思えませんでした。それでも仕事がないよりましよ、と同郷の同僚たちと談笑する彼女たち。7 割近くもの労働者が健康保険に加入しており、実際に具合が悪くなった時には半数の者がタイの病院で治療を受けられていて、残る半数は言葉や文化の違いなどから別の治療を選択していました。予想していた以上に健康保険の保有率も利用率も高く、移民の保健医療を支える一手として、健康保険の可能性を感じることができました。しかしながら、大多数の工場は訪問自体が難しかったことを見ると、まだまだグレーな部分が多いと言えます。

移民の保健医療を支えるために、雇用主やタイ行政の努力があることも見えてきました。大規模な工場では、敷地内に診療所を設置しミャンマー人の医師による診察が受けられるところもあります。そこで働く労働者たちは、具合が悪くなったらその診療所を受診するの、と安心した様子で語ってくれました。タイの行政においても、健康保険の設置だけでなく、病院にミャンマー人の通訳案内人を配置する、ヘルスセンターレベルではミャンマー人のヘルスボランティアを配置するなど、利用に関わる様々な取り組みがなされています。

どの取り組みをとっても、サービス提供側にいるミャンマー人の存在が要です。自身の海外生活を振り返ってみても、同郷であること、文化が同じであること、同じ言語を使うこと、は何にも代え難い安心感を与えてくれました。これら重要な要素がメータオ・クリニックには詰まっているのです。タイ政府の整備する大きな枠組みの中で、メータオの持つリソースが生かされ、移民の健康を安定的に支えられる体制が整えられることを願って、この先もタイとメータオ、双方と協力しながら活動と研究を進めていきたいと考えています。



国際保健医療協力のなかで (36)

【東京＝小林 潤】



遅ればせながら「サピエンス全史」を読み始めた。オバマ前大統領が絶賛した本だ。実に面白い。「認知革命」というのも初めて理解できた。

人間（ホモサピエンス）は、鳥や虎、川や山といった目に見えないものを作り出し、それによって150人以上の集団が共通の認識をもち、まとまるようになったと書いている。この革命によって会社、宗教、主義といった目に見えないものが認知されるようになったという。サル社会は、ボス猿といった力のあるものによって結び付き、その目に見える範囲での結び付きは多くても150個体をまとめるのが限界だというのだ。この認知革命があったからこそ、ネアンデルタール人や他の類人猿や他の動物を圧倒してホモサピエンスが増えて支配者となっていった。そして、その革命以前は生物学ですべてが説明される範囲であった。私がやっている国際保健学は、社会学や文化人類学をおおいに取り込んで進めているが、この革命のあとに必要な学問であるわけだ。生命を考える生物学、宇宙を考える物理学では、説明できない人間がつくりあげた仮想のものについて議論をしている。まだ20%しか読んでいないのに、このことを強く認識させてくれ希望をもたせてくれる本である。

絶対王政も市民革命も共産主義も、そう仮想のものであったわけだ。これによって多くの人がつながった。現在世界の多くの人々が信じてやまない資本主義や民主主義も実は目に見えるものでなく人間がつくりあげた仮想のものである。実は現在いろいろなところで、そのものについて疑問があがってきており、次に何が人をつなげられる主義になるのかが議論し始めている。もう経済が発展するという原則は当てはまらなくなっていることも大きく影響しているのだろう。実際グローバル化による市場の拡大についても先は見え始めた。このあとさらなるイノベーションで市場はある程度まで発展するだろう。しかし人工知能の発展ですでに多くの単純労働や多少のクリエイティブな仕事でさえなくなるといわれている。人の働き場所が減ってくると労働とその対価という経済の原則の一つもあてはまらなくなる社会を考えないといけないうところまできている。働くこと、それは素晴らしく人間の生きる原則であるということは作り上げられた仮想の一つだった。個人的には資本主義の限界は受け入れられるが、労働の原則はなんとも受け入れにくい。同じように、信じて疑わなかったことが、通用しなくなった。だからこそ多くの人達が不安になっている。

今、新しく人をつなぎ合わせる仮想を作り出す必要があるわけだが、これは認知革命がおきてから繰り返されてきたわけで実は当たり前のことであるわけだ。なにか希望を見いだせた気がしている。よい世界を作るために、新しい仮想のなにかを作り出しホモサピエンスがまとめられること。世界がまとめられるなにかの仮想を作ればいいわけだから。人は争うものとは限らない。すでに認知革命によって、見えない知らない人どうしが、つながり、まとめられることができるようになってきている、この新しい我々に与えられた能力はなんら変わっていない。考えて作りだせばいいのである何かを。

編集後記

賛助会員の更新をしていただきました皆様、いつもあたたかいご支援本当にありがとうございます。また、一年、どうぞよろしくお祈りします。

現在、日本事務局では、クラウドファンディングにご支援をいただいた皆様にリターン（返礼品）の準備をしている最中です。皆様への発送は、当初の予定通り3月末ごろを予定しています。



